

## 【水の里の旅コンテスト2018 応募企画】

### 【学生部門】

関西学院大学 都市研究会

『水の恩恵を感じる風光明媚なフォトジェニック旅 ～カメラ片手に河内長野へGO!～』

(観光地域：大阪府 河内長野市)

【日程】	日帰り		
【実施時期】	春・夏・秋		
【催行人員】	12名(最少催行人員：4名)	【お勧めする旅行者層】	若年層 (特に写真やInstagramを趣味にする旅行者)
【旅行代金】	3,220～4,220円 (大人1名)	【内訳】	
		南海バス 河内長野エリア 1日乗り放題チケット(モックルカード)：600円 昼食代(ビュッフェレストラン奥河内)：1,620円 木工体験費(木根館)：500円～1,500円 ガイド費用(滝畑ダムと滝畑四十八滝)：200円 旅行保険料：300円	
【企画趣旨(伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント)】			
<p>この企画は写真やInstagramを趣味とする若者をメインターゲットに置いている。河内長野の自然や体験を写真に収めつつ、水の織り成す自然と産物を楽しむことが出来るプランとなっている。</p> <p>河内長野は水が育む豊かな自然と共に栄えてきた土地である。紀伊山地から湧き出した水は「滝畑四十八滝」を形成し、訪れる人々に癒しを与える。森林は豊富な水を土壌に蓄えるとともに、河内材による爪楊枝や簾(すだれ)などの特産品を生み出してきた。さらに、流れた水は「滝畑ダム」に貯められ、農業用水や水道用水として人々に届けられる。</p> <p>今日、日本社会において第三次産業が発達し、就労人口も増え続けている。一方で、自然から直接資源を採取する第一次産業や、それらを加工する第二次産業は衰退期を迎えている。河内長野においても、水が育む様々な産業で、後継者不足や衰退が進んでいる。そのような状況で、主に若者に河内長野の水が織りなす自然と産業の魅力を感じてほしいと考え、企画を作成した。</p> <p>企画の行程は、水が河内長野にもたらす恵みをストーリーとして、旅行者に伝えられるようにすることを意識した。午前中は「滝畑四十八滝」や「滝畑ダム」に訪れ、水本来の美しさや、暮らしや産業の礎となる水を見てもらう。午後の行程では、河内長野の水で育った作物の料理を堪能し(「ビュッフェレストラン奥河内」)、河内長野の森林で取れた木材(おおさか河内材)を使った木工体験(「木根館」)を行うなど、水による恩恵を旅行者に体感してもらうという流れになっている。</p> <p>当企画では、写真・Instagram好きをターゲットに置き、「写真映え」を意識した構成にしている。水の里が織りなす自然や産業を「見る」・「聞く」・「作る」ことを通して旅行者の満足度を高めるとともに、思い出に残るように努めた。さらに、写真を旅行者がSNSで発信することを通じて、旅行者から河内長野の魅力を発信していくことを期待している。</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足度を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>各スポットで地元の経験豊富なガイドが同行する。</li> <li>滝畑四十八滝及び滝畑ダムの観光ルートを事前に調査し、危険な場所に関しては入念な準備を行う。</li> <li>万が一の事態に備え、旅行保険に加入してもらう。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>フォトスポットの紹介などを行い、写真好きやInstagramユーザーのニーズを満たす。</li> <li>安価かつ日帰りのプランにして、ターゲットである若者たちが気軽に参加しやすいようにしている。</li> <li>「見る」、「聞く」、「作る」という五感を使う体験を通して、参加者の知的好奇心を刺激する。</li> </ul>	
【企画協力(後援)機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力(後援)機関・団体名等】	【主な役割】
① 天野酒(西條合資会社)	店内の説明、販売	⑤つまようじ資料室	館内ガイド
② 河内長野市観光協会	広報、各種機関と調整	⑥ビュッフェレストラン奥河内(予定)	昼食の提供
③ かわちながの観光ボランティア倶楽部(予定)	ガイド派遣	⑦関西学院大学都市研究会	広報、各種機関と調整
④ 木根館	木工体験ガイド	⑧	
【特記事項】	移動手段：路線バス(南海バス 河内長野エリア 1日乗り放題チケットを使用)		
【催行実績】	無		



【 行 程 表 】

1 日 目	8:15	南海高野線「河内長野駅」に集合。 かわちながの観光ボランティア倶楽部のガイドと合流。 河内長野の歴史や文化財についてのお話を聞きながら、河内長野を巡る旅が始まります。
	8:30	「河内長野駅前」から「滝畑ダムサイト」まで南海バスで移動。
	8:50	滝畑ダムサイトに到着。 <b>滝畑ダムと滝畑四十八滝</b> を散策。 <b>迫力満点の大自然とダム</b> を満喫します。(所要時間:190分) バス停 ⇒ ダムえん堤 ⇒ 磨崖仏 ⇒ ダム沿いを散策 ⇒ 光滝 ⇒ 荒滝 ⇒ バス停(滝畑ダム)
	12:00	「滝畑ダム」から「奥河内くろまろの郷」まで南海バスで移動。
	12:36	奥河内くろまろの郷に到着。
	12:40	<b>ビュッフェレストラン奥河内</b> で昼食。 地産地消のビュッフェレストランで、 <b>河内長野の彩り豊かな創作料理</b> を味わうことができます。(所要時間:70分)
	13:50	徒歩で移動。
	13:55	<b>木根館</b> に到着。 <b>おおさか河内材を使った木工体験</b> を楽しみます。(所要時間:60分)
	14:55	徒歩で移動。
	15:15	<b>つまようじ資料室</b> に到着。 <b>河内長野の特産品「つまようじ」の展示</b> を鑑賞します。(所要時間:60分) 館内ガイドから、河内長野から世界に至るまで様々な「つまようじ」の歴史・文化・特徴について聞くことができます。
	16:15	徒歩で移動。
	16:30	<b>天野酒</b> に到着。 <b>河内長野の水が生み出した美味しい日本酒</b> を堪能します。(所要時間:30分) 日本酒や甘酒サイダーなどのお土産を購入することも出来ます。
	17:00	徒歩で移動。(高野街道を歩いて帰路に就きます) <b>夕日に照らされた美しい高野街道の景色</b> がこの旅の締めです。
	17:20	南海高野線「河内長野駅」に到着。到着後、解散。

【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産品など） 】

【滝畑ダム】	【滝畑四十八滝】	【ビュッフェレストラン奥河内】
 	  <p>写真下：河内長野市観光協会公式サイトより引用 www.kankou-kawachinagano.jp/</p>	 
<p>滝畑ダムは昭和56年11月に完成した多目的ダムです。あたり一面山に囲まれており、壮大な景色を楽しむことができます。特に水面に映る山々は神秘的で、写真の被写体としても優れています。さらに、地元のボランティアガイドからダムについての解説を聞くなかで、ダムと人々の暮らしの関わりについて知ることができます。毎年10月下旬頃にオシドリが渡来し、翌年3月初旬頃まで滞留します。この風景は、新河内長野八景二勝の八景の1つとして選ばれています。オシドリのいる優美な情景を楽しみたい方は、秋のツアーにご参加ください。</p>	<p>滝畑地区には周辺の山々から流れる河川や滝が多くあり、河内長野に豊かな水をもたらしています。多々ある滝は総称して「滝畑四十八滝」と呼ばれており、代表的な滝に光滝、荒滝があります。ダムからの道のりは、生い茂る木々に囲まれ、さらさらと流れる川の音が心を癒してくれます。25分ほど歩くと、光滝寺キャンプ場があり、場内に光滝があります。小さめの滝ですが、V字に流れる風景はとても神秘的です。さらに奥へ進むと荒滝キャンプ場があり、荒滝はその場内にあります。二手に分かれて流れる自然の造形美をお楽しみください。</p>	<p>道の駅「奥河内くろまろの郷」内にあるレストランで、河内長野の水を使い地元の農家さんが作った野菜・果実・米などをビュッフェ形式でお腹いっぱい食べることができます。さらに、収穫量の少ない希少な野菜が並ぶこともあり、とれたての野菜はみずみずしく新鮮です。地元のお母さんたちが作る総菜を楽しむことができ、水の里の生活にも触れることができます。味に加えて、おしゃれな外観や、色とりどりの野菜や果物は写真映えすること間違いなしです。視覚・嗅覚・味覚といった様々な感覚を使って、河内長野の食を堪能することができます。</p>

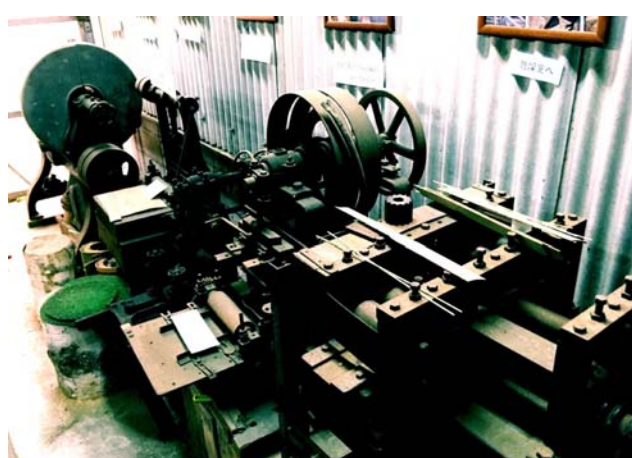


【 木根館 】



河内長野市といえば「おおさか河内材」。河内長野全体の約7割を占める森林は、古くから河内長野の人々の暮らしを支え続ける、この土地ならではの魅力です。加えて、河内長野の豊かな水環境を育むという、水源林としての重要な役割も担っています。木根館では、そんな河内長野市の森林自然の魅力を五感で感じることが出来ます。木の香る心地よい空間で、10種類以上の木工体験メニューのなかから、あなただけの木工製品を作ることが出来ます。自分で作ったオリジナルの木工製品は、旅のお土産にしたり友達に自慢したり。ナチュラルでおしゃれな「木のある暮らし」をあなたにお届けします。

【 つまようじ資料室 】



河内長野市は「つまようじ」の一大生産地です。古くは高級つまようじの原料「クロモジ」の産地として機能してきました。大正時代以降、生産や卸にも着手するようになりました。日本では「つまようじ」のイメージは、円柱状で先が尖っている物だと思います。しかし、世界の「つまようじ」を見てみると、実は日本の「つまようじ」が特殊であることに気付かされます。そのような「つまようじ」のアツと驚く文化や歴史を、資料室管理人の稲葉さんから解説していただきます。河内長野の「つまようじ」を通して、日本のモノづくりや地場産業について考えさせられます。

【 天野酒（西條合資会社）】



天野酒は、河内長野市の水が生んだ美味しいお酒が堪能できる歴史ある酒蔵です。創醸は享保3年（西暦1718年）で、その美しい蔵の景観は登録有形文化財にも指定されています。さっぱりとした甘酒サイダーや甘くて香り豊かな酒粕アイスクリームなど、お酒が飲めない人もちょっぴり大人な美味しい時間を楽しむことが出来ます。天野酒が建つのは「酒蔵通り」と呼ばれる一帯。古い町並みが残る高野街道沿いのこの通りを進むと、石畳風の道に杉玉が吊るされた民家が並び、その風情ある空間を写真に収めずにはられません。